

ヤマビルの対処法

ヤマビルをみつけたら

ヤマビルを見つけたら、定着して繁殖しないように、すぐに駆除しておきましょう。

駆除の方法

- 食塩をかける、食塩水(濃度20%)を入れた容器にヤマビルを入れる。
- 市販の忌避剤やディート30%入り虫除けスプレーをかける。
- タバコやライターの火で焼く(やけどに注意)。
- ハサミで切る。



※ヤマビルの体は弾力性があり、靴で踏み潰して駆除することは困難です。

ヤマビルに吸血されたら

対策をしていたけど吸血されてしまった!という時に備えて、取り除く際の方法を確認しておきましょう。

対処の手順

- ①ヤマビルを取り除く
食塩や消毒用エタノールなどをヤマビルにかけるか、ライターの火など熱を近づける(やけどに注意)とはがれる。それらを持っていない場合は、手で前吸盤をゆっくりはがす。
- ②取り除いたヤマビルを駆除する
吸血したヤマビルは産卵が可能となり増えてしまうため、その場で駆除する。
- ③傷口を洗浄する
指でつまんでヤマビルの唾液成分を絞り出し、できれば消毒用エタノールや水で洗う。
- ④絆創膏を貼って、血が流れるのを抑える
抗ヒスタミン剤軟膏(虫刺され・かゆみ止め)を塗っておくと傷の治りが早くなる。



～農林業従事者、地域住民の皆さんへ～

ヤマビルの被害から身を守るために

ヤマビルの吸血被害が例年、4～11月にかけて発生しています。特に気温が20度以上の湿った蒸し暑い時にはヤマビルの活動が活発となりますので、この時期にヤマビルの生息地域に行く際には必ず被害防除対策をとってください。



ヤマビル

動物や人の血液を吸う
陸生の生物

問い合わせ先：栃木県環境森林部森林整備課



〒320-8501 栃木県宇都宮市鳩田1-1-20
TEL : 028-623-3296
E-mail : shinrin-seibi@pref.tochigi.lg.jp
HP : <https://www.pref.tochigi.lg.jp/d08/yamabiru/20220419.html>



1. 吸血予防のために

ヤマビルに吸血されないためには、服装や行動に気をつけることが重要です。

服装の注意・忌避剤の使用

- ヤマビルの侵入を防ぐため、野外では極力肌の露出を少なくする。
- ヤマビルが体に付着しないよう、忌避剤を使用する。

ズボンの裾は靴下の中に入れる、上着の裾をズボンの中に入れる、襟元はタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用。

長袖、長ズボン、長靴、手袋、帽子等を着用。



市販のヤマビル専用の忌避剤や食塩水(濃度20%)などを長靴やズボンなどに吹きかける。

運動用サポーターなどに忌避剤等を浸し、長靴に巻き付ける。農林作業を行うときは、長靴とズボンの隙間をガムテープでふさぐ。

行動の注意

- 歩行中、30分に1回程度は足元などを見て、ヤマビルの付着や吸血されていないか確認する。
- 靴の中を確認する場合は、日当たりの良い地面が乾燥した場所で行う。
- 休憩時などに腰を下ろす時は、周囲にヤマビルがいないかどうか良く確認する。
- ザックなど持ち物を地面に直接置かないよう気をつける。

2. 周辺環境の手入れ

ヤマビルは乾燥した環境を嫌うことから、日当たりや風通しを良くし、ヤマビルが生息しにくい環境を整えることが大切です。

草刈り・落葉さらい

- 草刈り後の処理は、刈った草をそのままにせず、日の当たる風通しの良い場所で、数箇所にとめて乾燥させる。乾燥させにくい場合は、土をかける、穴に埋める、堆肥化するなどして確実に処分する。
- 落葉さらいは、地面が見える程度に落葉を除去する。

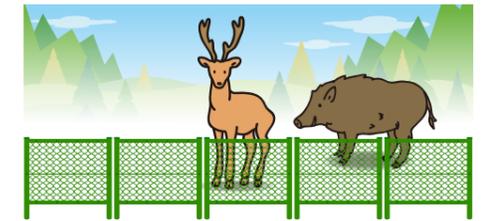


3. 野生動物への対策

ヤマビルの生息域を拡大させないためには、ヤマビルの運搬役とされるニホンジカやイノシシなどの野生動物を生活圏に近づけないことが重要です。

侵入防止柵・環境整備

- 農地や住宅地周辺に野生動物が多く出現している場合は、山林と生活圏の間に侵入防止柵などを設置して野生動物の侵入を防ぐ。
- 不要な樹木の伐採や耕作放棄地の管理などを行うことにより、見通しのよい空閑地帯を作って野生動物の餌場や隠れ場所をなくす。



4. 薬剤による対策

ヤマビルが多く生息している地域において、人が頻繁に出入りする場所には、防除効果のある薬剤を散布することにより、一時的にヤマビルの活動を抑制できます。

薬剤の使用

- 市販の薬剤には、ディートを有効成分とするスプレーや粉剤がある。
- 薬剤がヤマビルに直接付くと効果が上がるため、草刈りや落葉さらい後に薬剤を散布したり、散布後に落葉をかき混ぜると効果が持続する。
- 薬剤を大量に散布すると自然環境へ影響を及ぼすおそれがあるため、緊急的・局所的な対策として適切に散布を行う。

- 県の検証では、入手が容易で安価な重曹(炭酸水素ナトリウム)を直接地面等に散布することで、環境に配慮しながら一定の忌避効果が確認された。

※散布量の目安は、畳一畳の広さに対して重曹32g(手のひらに小さい山ができる程度)。

